

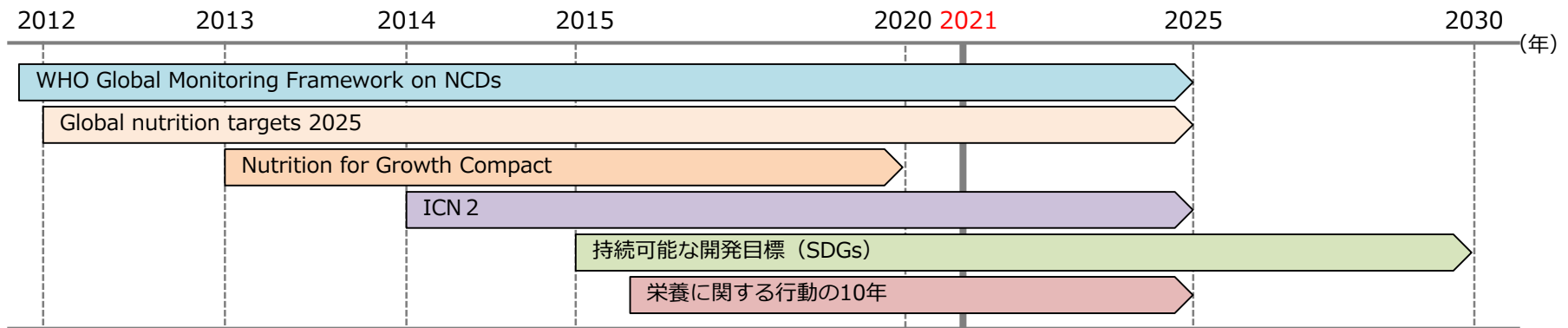
栄養サミットについて



2013年栄養サミット（ロンドン）の様子

東京栄養サミット2021の開催

- 「栄養サミット」は、英国が開始した**栄養改善に向けた国際的取組**であり、2012年のロンドンオリンピック・パラリンピック競技大会最終日に当時のキャメロン英国首相が開催した「飢餓サミット」をきっかけに、2013年にロンドンで初めて開催され、2016年はリオでも開催。
 - ・ 成果文書「**Global Nutrition for Growth Compact**」を発出。
 - 2013年(ロンドン)：2012年のロンドンオリンピック・パラリンピック競技大会の機会に栄養サミットの準備会合(飢餓サミット)を開催。2013年のロック・アーン(英) G8サミットの機会に栄養サミットを開催。英首相、ブラジル大統領、アイルランド首相(EU議長国)、マラウイ大統領などが出席。
 - 2016年(リオ)：リオオリンピック・パラリンピック競技大会の機会に開催。ブラジル保健大臣、DFID(英国国際開発省) 栄養特別大使、WHO事務局長、FAO(国連食糧農業機関) 事務局長などが出席。
- 現在、栄養改善に向けた国際的取組が複数進行しており(下図参照)、その流れの中で、2017年12月に開催された「UHCフォーラム2017」において、安倍元総理から2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に合わせ、東京で**栄養サミットが開催される旨を公表**。
- これまでの栄養サミットは、飢餓を始めとする低栄養が中心であったが、**東京開催では、過栄養のほか「栄養不良の二重負荷」をも対象**とした上で、これらの解決に向け、**持続可能な開発目標(SDGs)の推進にも資する議論**を予定。



【厚生労働省での対応】

- 厚生労働省は我が国の栄養行政を中心的に担う省庁として、これまでの栄養政策の知見・経験の共有も交え、国際的な議論に貢献しつつ、さらには、栄養に関する国際貢献(栄養政策の立案・展開支援)につなげていく。
- 本サミット開催に向けた準備を省内横断的に行っていく体制を確保するため、厚生労働省に厚生労働大臣政務官を本部長とする厚生労働省準備本部を設置。

<参考> 栄養改善に関連する国際的取組と主な目標内容

WHO Global Monitoring Framework on NCDs <WHO>

- ・目標4：食塩摂取量を30%減少
- ・目標6：高血圧の25%減少
- ・目標7：糖尿病と肥満の増加阻止

Global nutrition targets 2025 <WHA>

- ・目標1（Stunting）：5歳以下の子どもの発育阻害の割合を40%減らす。
- ・目標2（Anemia）：生殖可能年齢にある女性の貧血を50%減らす。
- ・目標3（Low Birth Weight）：出生児の低体重を30%減らす。
- ・目標4（Childhood overweight）：子どもの過体重を増やさない。
- ・目標5（Brest feeding）：最初の6か月間の完全母乳育児の割合を50%以上にする。
- ・目標6（Wasting）：小児期の消耗症の割合を5%以下に減少・維持する。

Nutrition for Growth Compact

2020年までに、

- ・少なくとも5億人の妊婦及び2歳未満の子どもに効果的な栄養の介入がなされていることを確実にする。
- ・5歳未満の発育阻害の症状にある子どもの数を少なくとも2,000万人減らす。
- ・発育阻害を予防し、母乳育児を増やし、重度急性栄養不良の治療を増やすことによって、170万人の5歳未満の子どもの命を救う。

ICN 2 <FAO/WHO Second International Conference on Nutrition>

ICN 2の成果文書「Framework for Action」において、アカウンタビリティ確保のために、既存の数値目標（Global nutrition target 2025及び2025年までに達成すべき非感染性疾患のリスク要因削減（食塩摂取量の30%削減等））を掲げている。

持続可能な開発目標（SDGs） <国連総会>

目標2で「栄養の改善」を掲げた2030年を達成年とする国際目標。

目標2：飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。

- 2.1：2030年までに、飢餓を撲滅し、全ての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。
- 2.2：5歳未満の子どもの発育阻害や消耗性疾患について国際的に合意されたターゲットを2025年までに達成するなど、2030年までにあらゆる栄養不良を解消し、若年女子、妊婦・授乳婦及び高齢者の栄養ニーズへの対処を行う。

栄養に関する行動の10年 <国連総会>

栄養に関する国際的な行動を集結し、前進させることを目的にした決議。

ロンドンサミット（2013年）でのコミットメント

成果文書「Nutrition for Growth Compact（成長のための世界的な栄養コンパクト）」概要

- 採択したステークホルダー：94（26の政府、27の民間セクターを含む）
- 構成：前文 3 ページ、コミットメント・サマリー 3 ページ、コミットメント・リスト36ページ
- コミットメント額：計41.5億ドル

コアファンド：29億ドル（英国政府より10億ドル、ECより46億ドル、ゲイツ財団より8.6億ドル）

15か国が栄養改善のための国内資金を増加

12か国が国家の発育阻害削減を目標：

「2020年までに、2000万人の子どもを発育阻害から守り、170万人の命を救う」

日本政府によるコミットメント

- 「成長のための世界的な栄養コンパクト」の採択
- 日本の国際保健外交戦略及び栄養関連政策
- TICAD 5 で発表した、今後 5 年間にわたる、保健分野への 5 億ドルの支援や、母子の栄養不良を予防するための支援を含む世界銀行を通じた 1 億ドルの支援の実施
- ガーナにおけるJICA・味の素・米国国際開発庁の 3 者連携をはじめとする、インド・バングラデシュ・ガーナにおいて進行中の官民パートナーシップの紹介
- WFPやSUN等の多国間パートナーシップの促進

栄養改善の取組は、持続可能な開発目標（SDGs）の17ゴールのうち、少なくとも12ゴールの達成に貢献するとされている

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

 **Japan.**
Committed to SDGs

1 貧困をなくそう 	2 飢餓をゼロに 	3 すべての人に健康と福祉を 	4 質の高い教育をみんなに 	5 ジェンダー平等を実現しよう 	6 安全な水とトイレを世界中に 
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	8 働きがいも経済成長も 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	10 人や国の不平等をなくそう 	11 住み続けられるまちづくりを 	12 つくる責任つかう責任 
13 気候変動に具体的な対策を 	14 海の豊かさを守ろう 	15 陸の豊かさも守ろう 	16 平和と公正をすべての人に 	17 パートナリシップで目標を達成しよう 	

東京栄養サミット2021の5つのテーマ

1 健康 : 栄養のユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) への統合 Integrating nutrition into Universal Health Coverage

栄養は疾病の予防・治療に重要である。そのため、各国の保健政策・施策や保健サービス提供体制に栄養サービスを含める必要がある。このようにして栄養改善による健康増進を図り、UHCの達成を推進する。

【取組の例】政府／ドナー：保健サービス提供体制への基本的な栄養サービス（栄養不良の早期発見のための検査、母乳育児の支援、乳幼児へのビタミンA補給等）の効果的な導入、栄養関連の保健製品へのアクセス向上、栄養に関する保健人材の育成等

2 食 : 安全で 持続可能かつ健康的な食料システムの構築 Building food systems: Promoting safe, sustainable and healthy diets that supports people and planetary health

栄養改善には食環境を整える必要がある。そのためには、安全で持続可能かつ健康的な食を推進する食料システムの構築が重要。世界の食料生産・消費の在り方、気候に配慮した農業等を通じて人と地球の健康を目指す。

【取組の例】民間企業：消費者における栄養価の高い食品の需要創出とアクセス向上、職場における栄養改善の促進、温室効果ガス排出量等に配慮した持続可能かつ健康的な食品の生産促進、食品廃棄の削減に向けた取組の促進等

3 強靱性 : 脆弱な状況下における栄養不良対策の促進 Promoting resilience: Addressing malnutrition effectively in fragile and conflict affected contexts

紛争や気候変動等の影響を受けた脆弱な状況下では栄養不良が課題。そのためには、妊産婦や乳幼児などの最も立場の弱い人々に対する効果的な栄養不良対策を促進することが重要。緊急人道支援と開発援助間での調整も必要。

【取組の例】国際機関：消耗症や発育阻害の予防・治療の拡充、緊急的ニーズ及び長期的ニーズへの対応のためのドナー間（緊急人道支援と開発援助）での調整と責任分担の明確化、紛争や干ばつ等のリスク情報に基づいた栄養危機への備えの強化等

4 説明責任 : データに基づく説明責任の促進 Promoting data-driven accountability

効果的な栄養改善の成果を着実に得るために、質の高いデータ収集及びエビデンスに基づいた進捗状況の測定が重要。透明性の高い説明責任メカニズムの構築も期待されている。

5 財源 : 栄養のための資金調達の推進 Financing for nutrition: Securing new investment and driving innovation in nutrition financing

栄養改善のための財源の確保が重要。そのためには、栄養のための国内資金の増加、予測可能なドナー資金の増大、革新的かつ触媒的な資金調達モデルの構築等が必要。